

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792200016
法人名	株式会社 エコ
事業所名	グループホーム なでしこ 1階
所在地	福島県岩瀬郡鏡石町高久田136-1
自己評価作成日	平成29年9月20日
評価結果市町村受理日	平成30年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成29年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを持ちいきいきとした生活が送れるように、地域の方々と共に楽しめるように努め、また交流を深める為定期的にボランティアの方々に来て頂いている。
日頃から季節感を大切に壁画作りなどをレクリエーションに取り入れ飾りを楽しんでいる。
常に一人ひとりの思いを大切に、寄り添いその人らしくより良い生活の実現を目指している。
定期的に研修を行い職員のスキルアップに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 自治会に加入し、地域の清掃活動に参加したり、散歩や自家菜園での畑仕事、野菜等の差し入れ等の機会を通して交流を図っている。また、歌や踊り、楽器演奏等各種のボランティアを受け入れ、地域と積極的に関わっている。
2. 社内研修が充実し、併せて外部主催の研修にも積極的に参加させ、職員の資質の向上に努めている。また、資格取得のための補助、研修制度が充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者を中心に職員間で、毎朝の朝礼時唱和し理念のもとにケアを実践している。年度末に理念の振り返り等を行っている。	開設時、全職員で話し合いをして理念を作り上げ、事業所内に掲示している。毎日、朝礼時に唱和し共有を図ると共に、年度末は理念に沿った支援ができているかを振り返っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のクリーン作戦に参加したり、毎月1回ボランティアの慰問等にて地域との関わりを持てるようにしている。	自治会に加入し、地域の清掃活動に参加したり、町内の子供御輿休憩所として事業所を開放している。また、事業所周辺の散歩を通して会話を交わしたり歌や踊り、楽器演奏等各種のボランティアを積極的に受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議等に地域の方々に参加して頂き交流を通じて認知症への理解と支援方法を深めて頂けるように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催する中で、委員の方々から頂いた意見等を反映できるように取り組んでいる。また、委員の方々へ可能な限り出席いただき意見を頂けるように努めている。	運営推進会議は定期的に開催され、各分野から委員が出席し、事業内容や事故報告、防災訓練への参加要請や人材不足等の課題が報告され、活発な意見交換が行われ、事業の運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の介護保険事業計画等策定委員会や運営推進会議、入居についての相談等を行うことにより協力関係を築けるように努めている。	運営推進会議や日頃の業務の中で、事業所の利用状況や活動内容、事故報告や利用希望者の相談等を通して、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や外部研修に参加し、ホームにて伝達講習を行い、職員全員が身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	社内研修や外部研修、勉強会等を通して、禁止の対象となる行為と弊害を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠は行わず見守りで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時等に傷の有無を確認したり、表情や気分の変化等日頃から観察を行い、職員間で情報交換し、見過ごされる事がないように虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて参加した職員がホームにて伝達講習を行い、職員は理解を深め制度活用時対応できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者と介護支援専門員にて対応し、契約書等を十分に説明し、納得と理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に要望や意見を伺いその内容を職員間で共有できるようノートを活用している。管理者を中心に反映できるように努めている。	日頃の支援の中や面会時を利用して、利用者や家族から意見や要望を聞き、その内容を記録している。出された意見や要望は、全職員が共有し会議の中で話し合いを行い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフ会議や個別面談時に職員の意見等を聴き、本社を交え運営に反映できるようにしている。	管理者は、日頃より職員が話しやすい雰囲気づくりに心がけ、カンファレンスやスタッフ会議の中で意見や要望を出してもらい、出された意見や要望は、必要に応じて法人本部と協議しながら、運営に反映させている。また、個別面談を行い意見や要望、悩み等を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップを図り資格を取得することにより給与への反映や資格が取得しやすいよう受講料などの補助制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修があり、希望する職員が積極的に参加できる体制となっている。また、外部研修も同様に参加しやすいシフト体制等になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内や行政の研修などのネットワークが出来ており、研修会へ積極的に参加し交流を図るとともにサービスの質向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に本人の要望や不安なことを確認している。本人の要望や不安を軽減できるように関係性も含め取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安を確認し、安心して頂けるように共に考え支援していけるように関係性も含め取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の要望等を確認し、その方が今必要としているサービスを含め助言を行い他のサービスをふまえた内容で話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いなど入居者様に出来る事は行って頂いている。また、料理など味付けを教えて頂くなど共に生活していけるように関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居申し込みの時点から共に考えていける関係性を築けるように努め、ご家族様の状況をふまえたうえで協力して頂ける様な関係となるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近所の方々の面会等ある。また、外出等により馴染みの場所へのドライブや買い物を行っている。	入居時に親戚や知人、思い出の場所等を把握し、家族等の協力を得て理髪店やマッサージ店、ドライブ等に出かけ、関係が継続できるよう支援している。また、馴染みの方等が面会に訪れた時は、湯茶の接待をしたり、ゆっくりくつろげるよう環境作りを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの生活等を把握し、その方々が自由に過ごして頂けるような場の雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にもご家族様へ状況確認を行ったり、相談等を受けている。また、ホームの行事への参加も呼び掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴や性格などを把握し、ご本人の意向に合わせて対応している。意思表示が困難な方は、ご家族様の情報を頼りに対応できるように心がけている。	これまでの生活歴や、日常生活の中での会話等から、思いや意向を把握している。また、思いを発せられない利用者には、家族等から情報を得て、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートやご本人様、ご家族様からの情報収集を行い把握に努めている。これまでの暮らしを大切にし、できる事は行って頂き、自宅に居るような環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、排泄、睡眠や生活時の表情、行動の観察を行い、ケース記録に記入し会議等に情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様に現状報告や要望等を伺っている。介護支援専門員と担当者を中心にケース会議を行い、介護計画書について検討等を行い、ご本人様の現状に即した計画書を作成している。	日々の関わりの中で、本人や家族の意向を聞き介護計画に反映させている。モニタリングやサービス担当者会議等を毎月開催し、基本的には3カ月毎に計画の見直しをしている。入居間もない方は1カ月間の計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子や変化、気づいた点を細かく記入し、申し送りや会議時に情報共有し介護計画書の見直し等へ活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様、日々の生活の様子等から新たに生まれるニーズを確認し、地域資源等の利用を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事や地域クリーン作戦、オレンジカフェへ参加できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医を受診している。受診時はご家族様に生活情報を提供している。希望により訪問診療を利用されている方は管理者を中心に連携が図れるように支援している。	本人及び家族の希望に応じて、かかりつけ医の継続や訪問診療を取り入れている。訪問診療時は、事前に身体状況を医師に伝達し、受診結果を『病院検診・服薬記録』に記載し、職員間で情報を共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。家族に対して毎月受診結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携看護師来訪時、健康状態や生活状況を伝え受診等が必要な場合の助言を頂く様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と随時連携を図りながら円滑に退院までの流れが作れるようにしている。退院後も生活へ不安がないよう関係性を構築し情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の事前確認を行い、グループホームでの対応状況の説明も行っている。生活する中で方向性の変化も考えられるため、介護計画書の見直し時期等にも確認を行っている。	入居契約時に本人と家族に対し、重度化した場合や終末期におけるケア対応の指針を説明し、事業所で対応可能な内容について理解を得ている。また、職員が看取り介護に関する研修を受講し、共通認識のもと支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の消防訓練や救急法訓練を実施している。またマニュアル等を整備し発生時の対応ができるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中や夜間を想定した訓練を年2回消防署立ち合いの元総合訓練を実施している。運営推進会議等にて災害時の協力体制を働きかけている。	消防署立ち合いのもと、年2回の総合防災訓練を実施している。また、元消防職員の指導を受けながら計画的に、毎月、火災、地震・風水害等、様々な災害を想定した自主訓練を実施している。運営推進会議で委員や地域住民の協力を呼び掛けている。飲料水や食料等も備蓄されている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時は他の入居者様に配慮した声掛けを行っている。一人ひとりの生活歴や性格を把握し声を掛ける際は十分な配慮をしている。	接遇に関する法人主催の研修会の受講や、事業所内の伝達研修を通じて接遇スキルの向上を図り、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援に努めている。個人情報の取扱いに関しては、鍵付き書庫で保管がなされ、責任ある取扱いが徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でご本人様の思い等を確認し、生活の中で行いたいことなどを自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にて自分の時間を過ごしたり、好きな事や好きなレクリエーションなどその人らしく自由に生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し、自分好みの髪型や日常の服装など好みや個性を尊重したその人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	定期的にアンケートを取り、好きな食べ物を提供している。食事後の後片付など可能な方に行って頂くなど食事に関することを協働して行っている。	チルド食品の配食サービスを利用し、事業所側で利用者の要望に基づいて、献立のアレンジを行っている。また、季節行事や利用者の誕生日に応じた献立を作成したり、おやつを利用者と一緒に作る等、利用者に食事を楽しんでもらえるように様々な工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と水分量を観察している。摂取量を把握し必要な栄養バランスを取れるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。自力にて可能な方は定期的に口腔内を確認したり、状態を伺っている。介助の必要な方は介助し必要に応じて義歯洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせさり気なく声掛けを行うようにしている。排泄パターンや排泄回数を記録に残し自立へ向けた支援ができるように努めている。	排泄チェック表を確認しながら、利用者の排泄パターンを把握し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することで、トイレで排泄できるよう支援している。排泄の失敗時には、利用者の居室に誘導しプライドを損ねないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活の中で体を動かす機会を設け、また、乳製品を取り入れるなどし、自然排便が促せるように支援している。排便状況は記録に残している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調とご本人様の希望に合わせて入浴時間や日にちを調整している。入浴時は好みの温度や水量など希望に添って対応している。	入浴は、利用者の希望と体調を見計らいながら、週2回以上入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者に対しては、タイミングを見計り言葉かけをする等、入浴の誘導を工夫している。また、入浴剤等を使用したり、会話を通して、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の安堵や聡明等一人ひとりに合わせ対応し、安心して睡眠が取れるような環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服状況は職員一人一人が確認を行うとともに、看護師が副作用などの注意点を伝達し内服への理解が図れるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の楽しみ事や役割を知り、一人ひとりの能力を活かしながら活気ある生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力を得ながら外出できるように調整している。また、買い物など職員対応にて外出することもある。季節に合わせてバスにてドライブに行くなどの外出支援を行っている。	事業所周辺の散歩や近所のスーパーでの買い物等の日常的な外出支援をしている。個々人の利用者の希望については、家族の協力を得ながら、外食やドライブ等の機会も作っている。事業所の行事として全員参加での花見やあやめ園等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額個人管理している方は買い物時など自分の好きなものを購入している。ホーム管理の方はご家族様確認し、外出時職員と買い物などを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話が使用できるようになっている。手紙の投函などはその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下には、季節に合わせた飾り付けや写真など掲示している。ゆったりとくつろげる居心地の良い空間作りに努めている。	共用空間には、ソファが設置され、日々の清掃や温度・湿度管理を適切に行い、壁には季節を感じさせる飾り付けを行い、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行き来ができ、気の合う方と会話したり、レクリエーションをされたりと思い思いに過ごして頂ける様に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	馴染みの物等を自由に持ち込んで頂き、その人らしい空間を大切にして、ご本人様とご家族様、職員で話し合いながら居心地の良い環境になるように工夫している。	各々の居室には、記念写真、家具等、馴染みの物を持ち込んでもらい、その人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。また、利用者の好みにそった飾り物を提供し、温かい雰囲気を出すように努めている。なお、清掃については日々職員が対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札を下げ自分で居室に行けるような環境や、居室も含め必要に応じた手すりを設置するなど自立した生活が送れるように工夫している。		